

# 世界遺産のグレートバリアーリーフと 熱帯雨林の2つが見られるグリーン島



## どの様にグリーン島が出来たか勉強しましょう

- 魚が生きたサンゴを食べてフンとして出し、そのフンに入っている砂が小島や砂浜の形成に役立っています。
- 一匹で一日250gぐらいの砂をフンとして生産することができます。
- グリーン島は6000年かけてこのような砂がたまってできた島の一つです。
- サンゴがたまってできたコーラルケイは、広いサンゴ礁の中でも潮流や波のない場所のサンゴの上にだんだんサンゴ砂やかけらが堆積してできました。



- サンゴ砂などがたまって、海の上から見れるようになった島では海鳥が休憩しました。その海鳥のフンは砂が風や水のはたらきで流されないように、固めます。海鳥のフンには植物の種が入っていることがあり、島に植物を運びました。
- グリーン島もこの様に植物が生え、今の熱帯雨林ができました。
- 下の写真はミコマスケイと言うサンゴ礁からできた砂山で、グリーン島もできる途中はこのような姿でした。



- グリーン島には80数種の草木、50種類以上の野鳥を見ることができます。
- ウミガメも沢山生息していて、一緒に泳げるなんて夢のようですね。
- 世界で最も面白い島の維持は、いろいろな環境保護対策によりこれからもずっと生活できるように考えられています。
- グリーン島では、海水を飲める水にしたり、人が使った水を全部きれいにする装置も持っています。
- 電気は太陽光発電でつくっています。これから水素発電を使う計画があります。
- 環境に悪い影響を与えず持続する事ができる島です。
- 皆様をここグリーン島にてお待ちしております。この様な大自然での「旅育」は、お子様の一生の思い出と経験になる事は間違いないです。

